

第1学年生活科学学習指導案

日時 平成18年11月2日(木)

第2校時

場所 ホール

授業者 遠藤 浩子

1、単元名 「はっぱの いろが かわったよ」

2、単元の目標

秋の遊び場などで、身近な自然に関心をもってかかわり、季節の変化に気づくとともに、そこで見つけた木の実や落ち葉などの自然を利用して、友達や地域の人などといっしょに、さまざまな遊びを工夫しながら楽しく遊ぶことができる。

3、単元の評価規準

・秋の自然とかかわったり、身近な秋の自然を使って友達や地域の人などと楽しく遊んだりしようとしている。 (関心・意欲・態度)

・秋の自然とのかかわり方や楽しみ方を考え、秋の自然を利用して遊ぶものをつくったり、遊び方やルールを工夫したりしてみんなと楽しく遊ぶとともに、それを表現することができる。 (思考・表現)

・秋になると、自然の様子や自分たちの生活の様子が変わることや、秋の自然や自然物を利用してみんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。 (気付き)

4、単元について

秋は1年の中で1番 変化に富んだ季節である。

小学校学習指導要領解説では、目標の(2)として、「自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりあいに関心をもち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。」とあるように、その季節のすばらしさ、美しさを1年生なりの感覚で受け止めさせ、感じ取らせ、楽しませたい。具体的には体全体の五感を使って主体的に秋の中で遊びながら秋の現象を見つけたり、落ち葉や木の実などの自然を生かしたおもちゃを作って仲間と遊んだりする。そういう仲間との自然への関わりが「やっぱり秋は楽しい、おもしろい。」という体験になり、やがて自然を大切にすることに繋がっていくと考えた。

5、単元指導計画 (全17時間)

| 次 | ねらい | 主な学習活動()時間数 | 指導・支援 | 評価基準 |
|---|--|--|--|---|
| 1 | 草花や木の実、虫などの身近な自然の様子を振り返り、秋の変化に気付くことができる。 | 学校の回りや通学路について見たり聞いたりした秋の様子を出し合い、話し合う。(1) | ・登下校時に子どもが見つめてきた草花や実、虫を提示して、秋への関心を高めておく。 | ・秋の様子に気付き、表現できる。【思考・表現】 ・人々の生活の様子の変化に気付くことができる。【気付き】 |

| | | | | |
|---|---|---|---|--|
| 2 | 遊び場で、落ち葉や木の実などに関わり、体全体で秋を実感することができる。 | 遊び場に行ってやってみたいこと、見たいことなどを話し合い、持ち物の準備や遊び場での約束を確認する。(1) 遊び場に出かけて、身近な自然を観察したり、拾い集めたり、遊んだりして、秋の自然を実感する。(4) | <ul style="list-style-type: none"> ・その地域の子どもに、どんな場所か説明させ、活動の見通しを持たせる。 ・体全体で遊ぶことに躊躇している子には様子をみはからって促す。 ・広めたい姿はそのつど紹介する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を使いながら体全体を使って楽しく遊ぶことができる。【関・意・態】 ・諸感覚を使って春や夏とは違った秋に気付くことができる。【気付き】 |
| 3 | 落ち葉や木の実を使い、飾りやおもちゃを工夫して作って遊ぶことができる。 | 遊び場で拾ってきた自然を使って、何を作りたいか話し合い、グループを作って道具や材料の準備の計画を立てる。(1) 自然物を使って、おもちゃや飾りを作る。(4) 作った飾りを見せ合ったり、おもちゃで遊んだりして仲間と交流し、気付いたところを改良したり遊びを工夫したりする。(2)(本時) | <ul style="list-style-type: none"> ・作りたい物のアイデアが浮かばない時には、図書館の本などを参考に考えさせる。 ・つまづいている子にはグループ内の仲間と助け合えるように助言をする。 ・きりやカッターなどの安全な使い方については事前指導し、実際の場面でも確かめていく。 ・交流時には子どもどうしの自然な交流を図り、工夫していることは広め共有させる。 ・招待する人に応じたおもちゃの改良やルールの設定などについて考えさせる。 ・お楽しみ会の計画のことを思い出させながら準備の計画を立てる。 ・招待した人が喜んでくれるような言葉か | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作りたい物を決めて工夫して作ることができる。【思考・表現】 ・できた物でみんなと楽しく遊ぶことができる。【関・意・態】 ・秋の自然を利用しておもちゃや飾りが作れることやみんなと遊ぶとより楽しいことに気付く。【気付き】 |
| 4 | 秋の自然を使って、工夫して作ったおもちゃや遊びを、下級生や地域の人などといっしょに楽しむことができる。 | 招待する人を決めて、その人たちに合ったおもちゃの改良や遊びの工夫、準備するものを考える。(1) 計画に沿って準備をする。(1) 招待した人といっしょに楽しく遊ぶ。(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・招待する人に合ったおもちゃの改良や遊びの工夫、準備するものを考える。(1) ・計画に沿って準備をする。(1) ・招待した人といっしょに楽しく遊ぶ。(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・招待する人のことを考えて工夫したり、遊んだりすることができる。【思考・表現】 ・招待した人が喜んでくれるよ |

| | | | | |
|--|--|--|-----------------------|---|
| | | | <p>けについて事前に考えさせる。</p> | <p>うな工夫やルールなどに気付くことができる。</p> <p>【気付き】</p> <p>・みんなで楽しく遊ぼうとしている。</p> <p>【関・意・態】</p> |
|--|--|--|-----------------------|---|

6、研究と関わって

「調べ考え、練り合い、社会事象の意味をとらえる社会科学習」の素地作り

生活科の学習対象は、自分の学校や通学路、地域のお店などの施設や自然、そしてそこに住む人々との関わり、家族やその一員である自分である。自分の周りに目を向け、確かめたり再発見したりする中で、郷土愛が芽生え、やがて日本、世界へと目を向けられていく。

そこで生活科の学習では、まず各自が自分の家の回りの「ヒミツ」を紹介し合う。そこへ出かけて行って遊んだり、そこで出会った人と仲良くなったりして楽しむ。視野が朝日町全体に広がり、自分の郷土のすばらしさや愛着が更に強まり、郷土を大切にしたい気持ちも育っていく。

また、机上の学習ではなく、まず「やってみる」という体験学習を重視することで本来児童が持っている関心意欲を大切に育て、その中から低学年なりの「思考・表現」を引き出させていく。これが、社会科の「調べ考えて事象を捉える」ことの素地になると考える。

ただし、やりっぱなしでは学習は成立しない。やった後に、やったこと・気付いたこと・不思議に思ったことなどを「ことば」に置き換えて仲間に伝えることがないと、積み重なっていかない。楽しかった体験の中から自由に自分の思いを語らせ、「気付き」を仲間に広めていくことが、やがて仲間と練り合いのできる児童の育成につながっていくのではないかと考える。